

第1学年1組 国語科学習指導案

1 単元 のりものクイズたいかいへようこそ! 「いろいろなふね」

2 単元目標

- (1) 乗り物について書かれている文章を、興味をもって読んだり、好きな乗り物について調べたりしようとしている。 (関心・意欲・態度)
- (2) 教材文の文型を生かして、調べた乗り物を紹介する文を書いたり、クイズを作ったりすることができる。 (書くこと)
- (3) それぞれの船の役目やつくり、使われ方について、大事な言葉を見つけながら正しく読むことができる。 (読むこと)
- (4) 主語と述語の関係に気をつけて文章を読むことができる。 (言語事項)

3 子どもと教材

本学級の子どもたちは、本を読むことが大好きで、毎週図書室で本を借りている。読んでいる本の種類は絵本にとどまらず、図鑑、工作について書かれている本に人気がある。乗り物について書かれている本を好んで読む子もいる。1学期に学習した「どうやってみをまもるのかな」では、動物の体のつくりと身を守る方法とが分けて書かれていることを読み取った。挿絵として示されている絵に着目させ、身を守る動物の様子を絵と文章で対応させながら読んだ。また、問いと答えという文章構成が繰り返されていることに目を向けることもできた。学習後、「これはなんですか。」「これは、〇〇です。」というクイズ形式の会話を楽しむ子もいた。10月には、国語の学習で生き物について調べた2年生が、自分たちでクイズを作り、そのクイズ大会に参加した経験がある。そのお礼の手紙には「自分で調べてすごいね。」「次はぼくたちがクイズをします。」とあった。こうした実態から、子どもたちの関心が高い乗り物についての紹介文を書いたり、それをもとにクイズを作ったりする活動を見通させることで、意欲的に説明文を読み進めることができると考えた。

「いろいろなふね」は4つの船を例に挙げ、その役目や装備、使われ方を紹介した説明文である。「ふね」は子どもの実生活の中であまり身近でないが、本教材は写真が大きく掲載されており、役目や装備も特徴的なものばかりであるため、子どもたちは関心をもって読み進めることだろう。そこで、本単元は、「すごいと思う乗り物について調べ、クイズを作って2年生をクイズ大会にまねこう」という活動を見通して単元を進める。そうすることで、教材文のように乗り物を説明する文章を書くためには、どのようなことを書けばよいか学びたいと意欲が高まるだろう。また、本教材は序論・本論・結論の文章構成が明確で、説明文の基本的な構造を学ぶのに適している。どの船も「役目→構造や装備(つくり)→使われ方(できること)」の3段落で構成されているので、違いを比べながら、内容を正しく読み取ることができる。この構成や文型を利用して、クイズのヒントカードを書く活動へつなげる。さらに、資料をもとに書き集めたヒントを用いて、紹介文を書かせたい。ヒントを「やく目」「つくり」「できること」に分類してから、文章にすることで、まとまりを意識した紹介文を書くことができるだろう。

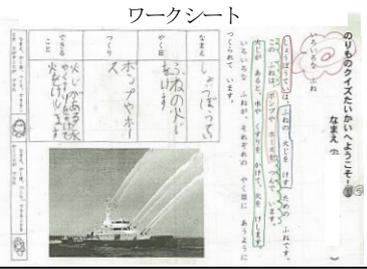
本時では、教師が用意したヒントを出すことで、どのような言葉や文を使ってヒントを出すか考えさせる。意図的にわかりにくい用語を用いたヒントにし、ヒントを出す自分も答える相手も分かる言葉や文にすることが、お互いクイズを楽しむために大切であることに気づかせたい。例題について全体で話し合ってから、隣に座るペアの子とクイズを出し合うことで、自分やペアの子のヒントカードは分かりやすいか進んで考えるであろう。アドバイスをし合って書き直すことで、自分が書いたヒントに自信をもたせ、次のクイズ大会への意欲を高められる1時間としたい。

4 指導計画(15時間完了)

- (1) 乗り物クイズを作るという学習の見通しを立てよう . . . 2時間
- (2) 教材文を読んで、読み取ったことをワークシートにまとめよう . . . 5時間
- (3) 乗り物について調べ、「のりものクイズたいかい」をひらこう . . . 6時間(本時3/6)
- (4) クイズで使ったヒントカードをもとに乗り物紹介文を書こう . . . 2時間

教材文「いろいろなふね」で学んだ基本的な文型や文章構成を使って文章を書き、相手に伝わるように、自分が書いた文章を自分から読んだり書き直したりする子どもを育てたいと思い、この単元を構想した。

【過程】	【学習の流れ】	【教師の支援】
<p>つかむ</p> <p>2時間</p>	<p>2年生が招待してくれた生き物クイズ大会に行ってきたよ。お礼に、ぼくたちもクイズ大会をしたいな。</p> <p>「のりものクイズたいかい」を開くために、「いろいろなふね」を読んでいこう② ※1・2・3</p> <ul style="list-style-type: none"> 船に乗って出かけたことがあるよ。 先生の乗り物クイズはおもしろいね。 「はじめ・中・おわり」に分けられるね。 「中」に4つの船が出てくるよ。大きな船だね。かっこいいな。 <p>乗り物のクイズを作りたいな。どうやってヒントを書くといいのかな。</p>	<p>※1 具体的に乗り物についてのクイズ大会を想像させるために、クイズの話型を使い、客船についてのクイズを出す。</p> <p>※2 文章構成に目を向けさせるために、全文を1枚に収めた教材文のワークシートを使う。</p>
<p>ふかめる</p> <p>（読む段階）</p> <p>5時間</p>	<p>それぞれの船について読んでいこう④ ※4</p> <ul style="list-style-type: none"> 「なまえ」を赤、「やく目」を青、「つくり」を黄、「できること」を緑で囲む。 「なまえ」「やく目」「つくり」「できること」をそれぞれ書き抜く。 どの船も、4つの色を使っているね。 前の船と同じように、囲んだり書いたりすればいいね。 <p>いろいろなふね」に書かれていたことを確かめよう① ※5</p> <ul style="list-style-type: none"> 4つの船の文を比べると、よく似ているよ。どの船も、赤、青、黄、緑の順番になっているね。 「やく目」は「・・・のためのふねです。」「つくり」は「このふねの中には、○○や□□をつんでいます。」「できること」は「人は・・・します。」の文になっているよ。 先生のクイズのヒントも、この文から作ったんだね。 <p>ヒントの作り方が分かってきたよ。調べた乗り物のクイズを作りたいな。</p>	<p>※3 クイズにしたい乗り物を考えさせるために、乗り物について書かれた図書を多く用意し、学級文庫に並べ、いつでも手にとることができるようにする。</p> <p>※4 1つの船について1枚のワークシートを用意する。繰り返し文章を色分けしたり、抜き出したりすることで、文型に目を向けさせる。</p> <p>※5 「つかむ」で使った全文が書かれたワークシートを色分けすることで、どの乗り物も同じ文章構成であることに気付かせる。</p> <p>※6 クイズを作りたいという思いを大切にするために、ヒントの教や文型については自由に書かせる。</p>
<p>いかす</p> <p>（書く段階）</p> <p>8時間</p>	<p>調べた乗り物についてのヒントカードを書こう② ※6・7</p> <ul style="list-style-type: none"> わたしはポンプ車をクイズにするよ。「はたらく車」になるね。 川や湖の水をくんで、火を消す車なんだって。これをヒントにしたいな。 <p>友達にクイズを出して、伝わるヒントカードになっているか教え合おう①（本時） ※8</p> <ul style="list-style-type: none"> 少しずつ難しいヒントになっているとおもしろいね。 難しい言葉だと、答えを知っている子はいいけど、答える人は答えられなくなるね。 <p>お母さんにクイズを出して、感想をもらおう① ※9</p> <ul style="list-style-type: none"> よく調べてクイズを作ったねってほめてもらってうれしかったよ。難しくて分からないって言われたよ。 正解のスタンプをもっと押したかったよ。このままだと2年生は答えられないから、直したいね。 <p>わくわくするクイズになるように、自分のヒントカードを書き直そう① ※10</p> <ul style="list-style-type: none"> 難しい言葉がまだあるから、2年生でも分かる言葉になおすよ。 最後のヒントは、すごく簡単にしたから、答えられると思うよ。スタンプが押せるといいな。 <p>2年生にのりものクイズ大会に来てもらおう① ※11</p> <ul style="list-style-type: none"> たくさんの子が来てくれたよ。最後のヒントで答えてくれたよ。正解のスタンプを押せてうれしいよ。 すごいねって言われたよ。クイズのために、本で乗り物を調べて詳しくなっちゃったよ。 <p>ヒントカードを使って文章を書いて、いろいろな人に乗り物のことを知ってほしいな。</p>	<p>※7 「ふね」「ひこうき」など、同じ仲間のを呼ぶ言葉を「しゅるい」と押さえておく。</p> <p>※8 教師や友達のクイズに答えることで、言葉によっては相手に伝わらないヒントになってしまうことに気付かせる。</p> <p>※9 子どもにとって身近な人にヒントを作ったことを認めてもらい、感想をもらうことで、クイズ大会への意欲を高めさせる。</p> <p>※10 2年生に伝わるように直させることで、自信をもってクイズ大会を迎えさせる。出す側、答える側が楽しめるクイズになるように意識させたい。</p> <p>※11 2年生からのお礼の手紙を読ませ、充実感を共有させることで、さらに調べたことを知らせたいという思いを持たせたい。</p>
	<p>「1ねん1くみ いろいろな○○」を書こう② ※12</p> <ul style="list-style-type: none"> ヒントカードを青（やく目）、黄（つくり）、緑（できること）に色分けすると、簡単だよ。 写真を見て分かることは、つくりに入れるといいね。同じ種類の子とつなげると教科書みたいになるよ。 <p>文章を読んで分かったよって言われて、うれしかったよ。書いてよかったね。</p>	<p>※12 ヒントカードを使って、役目、作り、できることの順になるように書かせることで、長い文章も抵抗なく書かせたい。</p>



5 本時の指導

(1) 目標

- ・ 相手を答えに導くために相手に、例題を分かる言葉や文に書き換えることができる。
- ・ 友達からのアドバイスを聞いて、自分のヒントカードを書き直すことができる。

(2) 準備

- ・ 児童：前時に書いたヒントカード 調べた本
- ・ 教師：例のヒントカード

(3) 学習過程（45分）

学習活動	主な発問と予想される反応	教師支援と評価※
<p>1 本時の課題をつかむ。(3分)</p> <p>2 例題を相手に伝わりやすいヒントに直す。(20分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ヒント①は1人で考える。 ・ ヒント②は全体で考える。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">わくわくするクイズになるようにヒントを考えよう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">みんなでわくわく答えてくれるヒントになおそう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> れい(答え「消防車(ポンプ車)」 ①この車は大きくて、5人のりです。 ②この車はスロットルレバーをつんでいます。 ③この車は、ホースカーをつんでいます。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> れい(答え「消防車(ポンプ車)」 ①この車は大きくて、5人のりです。 ②この車は、出す水のつよさをかえるレバーがあります。 ③この車は、ホースをもえているばしょのちかくまでつんではこぶホースカーをつんでいます。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ スロットルレバーは何か分からないよ。 ・ ホースカーって、車のことかな。 ・ <u>自分も2年生が分かる言葉にしよう。</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本には、分かりやすい言葉になっているね。 ・ 「レバー」はぼくも分かるから、そのままでもいいよ。 ・ 自分のクイズのヒントはどうかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師の例題をもとにヒントについて考えることで、自分のヒントをもう一度見直す意欲を高めさせる。 ・ 調べた本を拡大して掲示することで、どのように直すといいか考えさせる。 ・ 3つのヒントをどのように直したか分かるように板書を工夫することで、自分のヒントをどのように直すといいか考えることができるようにする。 <p>※ヒントについて気づいたことを話すことができたか。(話し合いの様子から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クイズ大会で使う話型を使うことで、意欲的に友達にアドバイスできるようにする。
<p>3 ペアでクイズを出し合い、ヒントカードを直す。(17分)</p>	<div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> ペアでクイズを出してアドバイスし合って、ヒントカードを直そう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ この言葉は、自分でもよく分からないから、もう一度本を読んで書き直すよ。 ・ どんなことができるのか、分かるようなヒントにしたよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒントカードを2人で見ながらアドバイスさせることで、具体的に話したり聞いたりできるようにする。 <p>※友達からのアドバイスを聞いて、ヒントカードを修正することができたか。(ヒントカードから)</p>
<p>4 本時の振り返りをする。(5分)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">わくわくするクイズができたか振り返ろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 難しい言葉は使っていないヒントになったよ。 ・ 2年生がクイズを楽しんでくれるといいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 直したヒントカードを話すことで、次時への意欲を高めさせる。

(4) 評価

- ・ 相手を意識して、例題を分かりやすい言葉や文にすることができたか。
- ・ 友達からのアドバイスを聞いて、ヒントカードを分かりやすく書き直すことができたか。

○ 本時の視点

難しい言葉が使われた例題を出し、資料を使いながらヒントカードを書き直させることは、自分や友達のヒントカードを修正するために有効であったか。